

履正社 柔整

— 『医療介護融合政策の本当のねらいが見えてきた』 —

学科長 田中 雅博



こんにちは。今年の夏は、東日本は冷夏と長雨、西日本では猛暑がつづき、大きな気候の違いがみられ、夏野菜の不足、不出来で日常生活に影響がでました。関西人には関東の異常気候を耳にしても記憶に残らないのでしょうか、まあ関東の人からすれば、関西に向けても同じ思いでしょうが。暑さ寒さも彼岸まで、秋らしくなってきました。

さて、テーマにある医療介護融合政策で、昨年10月から診療所での要介護者のリハビリテーションについては、ケアマネジャーが作成するケアプランで反映させるか、リハ計画書の中でリハビリを行わないとリハ点数は減算になりました。早い話が、**医療リハを下げ、介護リハを利用させるように報酬誘導**を行ったのです。しかし、来年の医療介護同時改定にむけて、9月から本格的な議論がなされています。

もちろん、増え続ける医療費を抑制し、支出の半分以上を占める社会保障費を抑えなければ、先にはギリシアのような財政危機、破たん、国家不安定、暴徒化に直面し、すきあらば攻め込まれ、日本中に赤い旗がかかげられるかもしれません。なんとしても避けなければ。

来年の改定は厳しい内容が予想されています。北朝鮮と米国の不安定な国際情勢が、我が国の防衛費に支出を強いらせ、財政悪化を一層招きます。当然、他の支出に影響するのであって、救命救急や急性期疾患などは除いて、それ以外の**医療費で抑える所は抑える**。ジェネリック薬品の使用割合率を上げ、病院での平均在院日数の短縮化、そして維持期や回復期リハビリテーションの扱い。入院入所から在宅通院通所、医療リハから介護リハへのスライド、要介護度の改善率加算。すべて想定内の動きとなるでしょう。同じサービスなら低価格で医療介護保険制度を利用した、濡れ手に泡はもうありません。勤勉に努力し、**必要なモノとコトだけ公的保険を利用する**。保険取り扱いの権利を持つ全員の意識を変えなければ。

ある方から以下の情報が耳に入りました。接骨院の年齢別廃業率が高いのは、60歳以上が圧倒的に高い。それはなぜか？年齢的な事情もあるのですが、社会の、時代の変革に対応しきれていない。その年代は、潤沢な保険依存型で接骨院を経営していた、いわゆる接骨院バブルの時代。今の30代や40代の院長は、手技実費徴収や受付で柔整の適応疾患を仕分けし、柔整施術室と異なる入り口の整体院を紹介し、実費徴収で施術を行う。他の施策に、昼休憩時間の廃止、開院時間の延長、休日診療、そして通所介護施設併設など、売上低下を補完する施策をいろいろ取り入れている。しかし、60歳以上のいわゆるシニア院長は潤沢な保険の時代だったから、あの手この手で補完するやり方を知らない。いつまでも健康保険を追い求めている。**返戻が増加し、対応しきれなくなって両手を上げる**。

医療介護融合政策の先に見える、実費負担の現実。第1段階、**ジェネリックリハビリテーションへのスライド**でしょうか。



<各学年の動き>

1年生 (担任：三村先生) 初めての定期試験、結果はどうでしたか？まずは自分の勉強量とのギャップを考えてみましょう。「めっちゃ勉強したのに点数はいまいち…」という科目は要注意かも。量だけこなしても、それに点数が伴わなければショックも大きいでしょう。詰め込み勉強で乗り切ろうとするのではなく、習ったことが頭に定着しているのかを定期的に確認する習慣を身につけましょう。ひたすらに確認作業。まずはそれが勉強の近道ではないでしょうか。後期試験では納得のいく結果が出せるように、ヒヤヒヤしなくてもいいように、毎日の授業から大切にしましょう！！

2年生 (担任：竹内先生) 学生生活3年間の半分が過ぎようとしています。6月にはアメリカ研修があり、その後は現場実習など目まぐるしく過ぎた夏でしたね。その後の前期試験の結果はいかに…。ちょうど1年後には財団実技審査や各種学会発表など行事も多くなります。そして、いよいよ本格的に国家試験にむけて本気にならなければならない時期になります。今は関係ないような雰囲気でしょうが、必死になっている3年生は、1年後の皆さんの姿です。今を頑張るか、後で苦労するか、自分自身に問いかけてみて下さい。

3年生 (担任：福田先生) 3年生諸君！「時は金なり」時間は重要ですよ！これからは勝負の時です。財団試験はどう？卒試は？国試は？タイムスケジュール管理はできていますか？何事も計画性を持って行動してくださいね。焦る気持ちはいらぬよ。一步一步の積み重ねが大事です。周りを意識するより、自分自身を意識して頑張ってください。最後は気合いと根性！「なにくそ！」だぜ。

<校内学術大会・特別講演>

H29年9月16日(土)、柔道整復学科学術大会が開催されました。3年生の代表6名が頑張って作成した卒業論文を発表しました。2年生の皆さんには卒論の参考になったと思います。本年度は、実行委員長である小松義彦君を中心に、各学年の実行委員が主体となって運営した大会です。何度も打ち合わせを行い、またハギーコーポレーションのご厚意により、数々の医療機器の展示においては学生たちが興味のある治療機器を体験・見学することもできました。志和輝彦氏による特別講演では、夢の実現に向かって頑張ることの重要性が再確認できたと思われま

特別講演

志和 輝彦 氏 (有限会社 J-RADIANCE かがやき整骨院)

演 題 『夢を叶えるために大切なこと』 ～ 楽しい人生にするために ～

発表者

演 題

- 1) 松本 圭 『腹圧トレーニングとパフォーマンスの関係性』
- 2) 越智 建太 『FMS 評価と運動連鎖 ～野球の打撃動作に着目して～』
- 3) 殿谷 保高 『動的ストレッチと静的ストレッチを行うことでの変化について』
- 4) 池田 微優 『ベーシックセブン及びスクワットが重心動揺に及ぼす即時効果』
- 5) 藤澤 佳隆 『高齢者における転倒予防 ～前腕屈筋群と前鋸筋の握力関連性～』
- 6) 正木 祐也 『瞬発力と下肢の筋力トレーニングとの関係性 1』

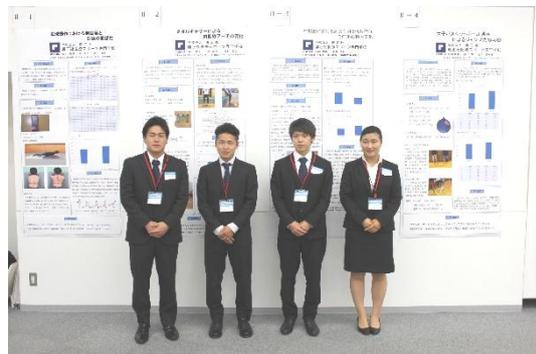
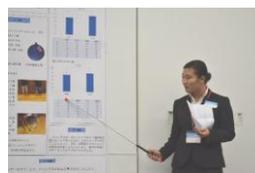


<第 42 回近畿学術大会 和歌山大会>

10月1日(日)和歌山県民文化会館にて、(公社)日本柔道整復師会 第42回近畿学術大会和歌山大会が開催されました。本学科では毎年、学生ポスターの発表を行っており、今年も3年生の4名が発表しました。ポスターの作成から発表までは、繰り返しの修正や発表練習を行い、色々な先生方のアドバイスを頂き、この日を迎えました。緊張しながらも堂々とした発表で、参加者からのするどい質問にもきちんと答えていました。この貴重な経験を将来にも生かしてほしいと思います。

演題

- | | |
|--------------------------------|------|
| 「投球動作における前鋸筋と
球速との関係性」 | 鈴木航平 |
| 「タオルギャザーによる
内側縦アーチの変化」 | 羽山哲矢 |
| 「中殿筋における高負荷群と
低負荷群での重心動揺変化」 | 山崎慎悟 |
| 「女子バスケットボール選手による
ジャンプ力の考察」 | 田中真穂 |



< 体育祭 2017 『一致団結』 >

10月17日(火) 東和薬品 RACTAB ドームにて体育祭が行われました！
年に1度、全学科・全学年が一堂に集まるイベント。今年のテーマは「一致団結！履正社！！」
テーマにあるように今年は学科対抗戦での実施となり、例年以上に各学科の団結力が感じられる体育祭となりました。
学科ごとの対抗戦は、その昔、柔道整復学科が連覇しすぎた為に無くなったとかそうでないとか...
それならば再び優勝を狙おうじゃないか！と意気込んで挑みました！
出場エントリーを考える時から「綱引きはパワー型で...」「フラフープリレーは小柄なメンバーで...」と「勝ちに行く」、
為の布陣を考えていただけあって、なんとなんと柔道整復学科が学科対抗の初代王者として輝きました！やっぱり1番
は気持ちが良いですね！もちろん、来年目指すのは連覇！！今から楽しみにしています♪

p. s.

来年のリレーでは現役選手を擁するチームに勝ちたいな～。



< タナカジャーナル >

『破壊と創造の世界へ、AI が進める医療の新たな枠組み』

AI などの進歩は、第4次産業革命を引き起こすと言われている。人工知能がもたらす社会は、無限に近い情報の処理と分析から、その変化を読み取り信号化する。その結果が規定数値内なのか、超過しているのかこの部分だけでも判明できれば、医療改革が起こる。例えば、コンビニの中に、指先から採血した微量の血液や呼気、喀痰などの生化学検査ができるスペースを設ける。瞬時に様々な数値がプリントアウトされる。運動器損傷を扱う我々のような医療職者にとっても脅威だ。同じく、コンビニのスペースに、体内が透視できるエコー検査器のようなものがあり、異常を認知し、結果を通知する。ほぼ瞬時に判明し、待ち時間もほとんど皆無。その上、安い。患者はその結果をデータで持参し、医師に処置を依頼する。生化学検査を含め、医師の鑑別診断が必要でなくなる。AIの結果を参考にし、自分の疾患や損傷を自分で判断する分には、医師法は適用外だ。気になる人は最初から医師の受診を受ければよい。近い将来、自宅においても同様のスペックを備えた医療機器が出回るだろう。

来年の春に医療介護同時報酬改定が行われる。6年に一度の改定だ。2025年問題に向け、来年に実施しておかなければ次の改定、2023年では間に合わない。本誌においても筆者は何度も訴えているが、必要な医療には金を出す。しかし必要でない部分や、同じ効果が期待できる安価な方法で代用できる部分、自宅のできる事などを含め、仕分けをする。多くの有識者、関係者から毎日といっていいほど耳にする。わが国が、国民にも事業者にも、性善説としてきた、国民皆保険制度のツケがいよいよやってきた。

経済はお金で生きているし、当然経営にはお金が必要だ。しかし、そのお金は有限であり、底をつけば、お金の信用度はなくなり、パニックになる。既存の利権を破壊し、新たな枠組みの中で再生を図る。衆議院が解散された。高齢者の対策ばかりが課題とされるが、同時に、今後負担を担うこれからの子供たちに新たな施策を構築し、希望を持てる社会づくりが必要だ。そのためにも医療費の削減施策には、積極的に手を付けるべきだろう。

<語録「履正林」>



1. 嘘を愛する女： このテーマをみて反応された方は、よほどの通です。実は、来年 1/20 に公開される、長澤まさみ、高橋一生、DAIGO、川栄李奈、黒木瞳など、超豪華キャストが出演している映画です。しかしどうして、履正林のテーマに選ばれたのか。実は、この監督脚本をしているのは、中江和仁氏。この中江和仁氏は、なんと**公益社団法人滋賀県柔道整復師会会長、中江利信先生のご子息。柔道整復師の息子さんが監督をされているのです。**先日開催された、公益社団法人日本柔道整復師会近畿ブロック学会和歌山大会の会場で、『ななあ、先生、このパンフまたみておいてよ』と頂いたが、翌日職員室で掲示すると大ブレイク。長澤まさみさんの大ファンである教務の T 先生に、かねてから松田聖子さんの大ファンである F 先生は、『先生、それだけのファンなら、ファンクラブに入会し、握手してもらわないといけませんよ』と、50 歳を超えても目を輝かせて力説する姿には、誰もが一步引く所がある。

2. 認定柔道整復師制度： 一般社団法人、日本柔道整復接骨医学会が認定している制度。一定の条件をクリアした人に資格が与えられるが全国的に資格取得者は少ない。しかしながら、**今年度教務の 5 名の先生が、この資格を取得した。**これも釜谷校長の教育方針である、臨床研究や実験を積極的に行い、学生に学会発表を通じ、学術の重要性をしっかりと教育しておくように。との方針になった結果でもある。しかしながら、教務の M 先生は先日の学会会場で『先生、**今回うちの学生発表数が一番多い**ですね、うちの学校がこんな風な学校になるなんて、思いもありませんよね』と、どういう意味で発言したのか本意が不明であったが、学会出張への行の車内で、いつも携帯で夜の宴会会場を探している姿は、真の認定柔道整復師とは言い難い。

3. 最速梅田行き電光掲示板： われらの阪急電車十三駅は、神戸線・京都線・宝塚線の集中ターミナルで、すべての電車が停車する。特に梅田行の電車は平均すると、おそらく 3 分ほどでどこかのホームから出発する。ところが、学校から最も便利な十三西口改札口から入ると、どこのラインが最も早く梅田行が来るのかわからない。携帯や時刻表でみると、その時間差でどこかのホームで梅田行が行ってしまう。しかし、先日(時期は不明)から、西口改札口に入った所に見て判別できる、電光掲示板ができた。これで、**先発する電車を見送りながら、他線で梅田行電車を待つ悔しさ、葛藤から解放される。さすが、センスとロマンの阪急電車。**阪急電車で通勤している、若きスマートで寒がりの M 先生は『さすが阪急電車。人の心を読んでくれていますね、うちの職員室でもそうあればいいのに』と、体温感覚格差に悩む若き M 先生は、**真冬でも汗をかいている、M 先生の夏の異常なクーラー設定温度に、**となりで何度もくしゃみをしていたのは、さすがに師弟従属関係を超越している。

4. リニューアル・オープンキャンパス (ROC)： 今年の夏の OC がリニューアルした。どうなったかということ、今までスクール形式であった、教室の配置を、学科ごとのグループ形式で椅子と机をならべ、参加者や在校生、教員が互いに見えるように配置した。それに、ゴージャスとは言えないが、**サンドイッチや鶏のから揚げ、卵焼き、ポテトフライなど軽食とソフトドリンクをおいて、お昼は食べながら会話が進むようにした。**いままでは少し硬かった雰囲気が一変し、笑顔がたくさん見られるようになった。すぐにアイスブレイクができ、将来の夢、希望など多くの質問や相談がでてきた。教員や在校生に対しても、普段着の表情で対応でき適確にアドバイスやコンサルが増えた。この ROC のプロデュースをしたのはなんと、教務のでっかい方の M 先生。東京での 5 年の一部上場会社員経験から発生したものだ。しかし M 先生は厳しさを語る。『まだまだ改善の余地がある。せつかく時間を遣って来校してくれたみんなに、たとえ受験してくれなくても、履正社の OC は勉強になった、いい経験ができた。すべての人がそう思わないと意味がない』と、**東京での会社員 5 年経験で何を身につけたのか知らないが、**めずらしく説得力のある言葉に感銘を覚えた。

5. 教員研修会： 本校は開学時から、全国 60 校ほどの柔道整復の養成学校で組織する、**公益社団法人全国柔道整復学校協会に加盟し、1 年に 1 度開催される教員研修会や全国柔道大会に参加している。**この教員研修会は夏に 2 日間開催され、のべ 800 人くらいの先生が集まる。全国輪番制で、各地で開催されるが、なんと平成 32 年度の開催主管校が履正社に決まっている。アクセスに利便性の高いホテルで開催するのが通例だが、釜谷校長は、『**研修会は履正社高校の釜谷記念ホールで開催したらどうだ、**阪急曽根駅(豊中市)から梅田駅までも近いしね』と話されたが、駅のホームや車内に柔道経験者が多い、体重 100k 超も数多くいる、**ごつい教員 500 人があふれる様子**はご想像にない。教務の N 先生は『集団の中にはスキンヘッドもいますし、派手なネクタイや、わに革みたいなカバンを持ち、光った靴を履いている先生もいる。それが 500 人ですよ、やめた方が・・・』と、真剣に反論されていた。釜谷校長にご理解を頂くようにしたい。

<チューター勉強会 開催中>

チューター勉強会とは、卒業生が在校生の勉強をサポートしてくれる場です。毎週木曜日に開催しています。ぜひ参加してみてください。(開催時間等は教務の先生に聞いてみてくださいね。)